

パパジャングル

南相馬っ子リフレッシュ大作戦

「冬休みスキーツアーin スキージャム勝山」

ご報告書



<はじめに>

今年の夏休み、パパジャングル理事長、荒巻仁の「福井においでよ！」と発した言葉から立ち上がった南相馬市のPTAを窓口とした「南相馬こどものつばさ」プロジェクトを通じて被災地の子ども達 15 名を福井県坂井市春江町にある放課後児童クラブ「子どもジャングル」に 7 日間招待をしました。

そのときに参加して楽しんでくれた子ども達とその保護者の強い要望で「冬休みにも是非やって欲しい」との声があがりました。

夏休みの時に、準備が大変だったこともありましたが、それ以上の大きな感動をもらいました。そして、その感動をもう一度！ということで9月には冬休みに向けての準備をスタートさせたのです。

当初は活動資金など心配していましたが、結果多くの方々の賛同、ご理解、ご協力を頂けたことにより、今回も、わたしたち、被災地のこどもたち、双方に実りのある活動となった事、皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

簡単ではございますが、以下に活動内容をご報告させていただきます。書面にてのご報告、失礼をお許し下さい。

1日目 12月23日 スキージャム勝山へ大移動



前回参加した15名の内、都合により2名が残念ながら参加できませんでしたが、年末、クリスマスの多忙の最中、5年生3名（男子）、6年生10名（女子）が南相馬市からバスに乗車。鯖江高速観光さんに送迎を委託し、スタッフが同乗し手の送迎となりました。

早朝7:00に保護者の見送りと共に出発。途中、朝食休憩を挟みながら16:00には福井県勝山市「スキージャム勝山」に到着しました。

予定より1時間早い到着。到着後、明日からのスキーのためにウェアからブーツ、スキー板、グローブ等、全てのレンタル用品の準備をしました。東急リゾートさんにはレンタル代・リフト券をご提供いただき、また最終日の宿泊等、様々なご厚意を頂きました。ありがとうございました。

その後、3泊お世話になる北陸電力株式会社の保養所「リフレ勝山」のコテージに移動。普通なら部外者の宿泊はできないのですが、ご協力をいただきました。ありがとうございました。男女2棟に分かれての宿泊です。早速、屋内探検、寝床確保、食事の準備と始まりました。

「枕投げ、していいか!？」と期間中何度も問いかけられました。さすがに立派な施設、子ども達も遠慮したようです。それでも長旅の疲れも見せず、子ども達は寝ずに夜通し語り明かしていたようです。明日からの初スキー、怖さを知る事になるのか、楽しさを満喫する事になるのか楽しみです。



2日目 12月24日 スキー初体験&X'masパーティ



目が覚めると外は大雪です。ホワイトクリスマス。早速雪遊びを始める子ども達。スキー場のコンディションも最高のようです。吹雪かなければ...

7:30に「リフレ勝山」にてバイキング朝食を頂いてゲレンデに向かいました。時折日が射す絶好の天気。午前中は...

ブーツを履くのも一苦勞してゲレンデで準備体操。荒巻流、初心者向けスキー指導

の始まりです。この日は指導の為のスタッフも多数応援に駆けつけてくれました。ご協力、ご厚意、誠にありがとうございます。おかげさまで、子ども達は見る見る上達し、昼食前には全員リフトに乗ってひと滑りできるまでに上達しました。荒巻流の指導とスタッフの皆様のご協力、それに子ども達の頑張りがあってのこと。半日でここまで出来ればこの期間、必ずスキーを楽しめるはず。そう思える初日のスタートとなりました。ただ、昼食後は吹雪きました。そんな中、夏に交流した春江町放課後児童クラブ「子どもジャングル」の女の子が保護者と共にスキーへ合流し、一緒に楽しんでくれました。



この期間中、雪質は最高なのですが、ずっと吹雪いていました。さすがに子ども達の一部から「前が見えない。今日はもうやめておく」と15:00頃、声が上がりました。早々に切り上げてお風呂へ行く子、時間ぎりぎりまでスキーに講じる子、様々でした。初日としたらスキーの上達度、満点です。取材に来ていた新聞記者の方も上達振りに驚いていました。

食べきれないほどの夕食を頂いた後、場所を東急リゾート・ハーベスト勝山のカラオケルームに移動してささやかなクリスマスパーティを実施。ここには夏と一緒に活動し交流を深めた子どもも合流し、ミニゲーム、グループ対抗歌合戦等福井っ子、南相馬っ子、みんなが更に交流を深める時間となりました。

お忙しい時に憐長田タイヤ社長の長田さんも駆けつけて頂き、多数の差し入れと共に飛び入り参加、大いに盛り上げて頂きました。ありがとうございました。

3日目 12月25日 スキー&雪遊び

今日も雪、大雪になっています。早朝、レンタルスキーの滑りがおもわしくない板もあり、全員のスキー板にワックスを塗りなおす作業から開始。AM5:00頃から約1時間かけて終了。子ども達はさすがに疲れていたのか誰も起きては来ませんでした。

バイキング朝食後、スキーへ出発です。数名の女子が「今日は部屋でゆっくりする」と言っています。リフト乗り場の直ぐ側のコテージ、晴れ間が覗き「スキーがしたい」と思い立ったら直ぐにできる環境。それもあります。思い思いに雪山、スキー、宿を子ども達は楽しんでいます。

宿泊先、北陸電力株式会社の「リフレ勝山」さんがクリスマスケーキ、シャンメリー、クラッカー等を人数分、用意して下さいました。ありがとうございました。思い思いの時間に子ども達はケーキを口にしました。

コテージ先でオレンジ色の雪の塊を見つけました。何なのか子ども達に尋ねると「野菜ジュースをかけて雪を食べた」との事。「雪、食べたかったの。福島では食べられないから」と女の子の声。「…」。「けど、野菜ジュースではまずい。食べられない!」との事でした。

スキーの腕前はみんな更に上達。安心してみていられるようになりました。夕方にはスキー場でイベントがあり、東急リゾートさんのご好意で「大ビンゴ大会」「じゃんけん大会」にも参加。数多くの景品をゲットしていました。

夜はまた食べきれないほどの食事を頂き、何度もお風呂に入り、カラオケルームも開放。



昨日歌い足りなかった子もしっかり堪能。部屋のTVは年末特番で今年の重大事件等も流れています。当然「大震災」の映像が流れます。「これ見たい!」と言う子や「見たくない!」と言って部屋を出る子、様々です。「…」。

明日はスキー最終日。この上達振りなら皆、自由に滑走できると思います。スキー場、堪能して欲しいなあ…。

4日目 12月26日 スキー・雪遊び最終日、宿移動



スキー最終日、雪が降り続けています。それでも今日は朝から全員がやる気満々です。3泊過ごした宿を後にして多くの荷物を今回最後の宿泊先「ホテルハーベスト」さんのロッカーに移動させてスキー開始。急斜面でも迂回路を使わず全員が挑戦しています。

昼食時に、夏休みに仲良くなった MARE ママさんがわざわざ子どもたちに会いに来てくださいました。ご自身もレンタルをして、子

どもたちと一緒にスキーをしたり、夜までいてくださいました。そしてまたまた一人一人にプレゼントまでくださいました。

午後には広いスキージャンプ勝山の頂上まで幾多のリフトを乗り継ぎ辿り着き、見事滑り降りてまいりました。初心者が3日間でここまで滑れるようになるとは驚きです。これだけ滑れば楽しくないはずはありません。堪能してくれましたと思います。おそらく「またスキーがしたい」と皆思ってくれているはず。そう信じられるような光景でした。



それでも雪がひどく 16:00 前には名残惜しくもスキーは終了。ホテルハーベストさんの広い温泉へ直行しました。ホテルの部屋は3人部屋～5人部屋に分かれて宿泊。オートロックのカードキー。何人もがインロックをしまいフロントの方にお世話になる羽目に。

夕食、翌朝食共にバイキング。こちらも堪能しました。

明日の朝には南相馬に向けて出発です。最後の夜、スキーの心地よい疲れと、さらに深めた仲間との絆、そして別れの寂しさが入り混じった感情を抱いての雪夜の宿。だれかれともなくスタッフの部屋に全員が集まり他愛のない話をしています。私達スタッフにとっても、なんとも言いがたい心地の良い、そしてちょっぴりほろ苦い時間がゆっくりと流れていました。何がそうさせたのか。涙ではなく、笑顔でもなく、言葉にするほどの事でもないのですが、その心地よさに、つい子ども達より先に眠りについてしまいました…。子ども達は何を思ったのだろう…。

5日目 12月26日 南相馬市に向けて出発

早朝、あわただしく身支度を整え朝食を終え、8:00 にバスへ乗り込みます。お土産や荷物を詰め込み、片手にはバスの中で食べるおやつも持っています。夏に引き続き、期間中の全ての飲み物やおやつに軽食、クリスマスプレゼントのお菓子などは県民生協さんがご提供下さいました。ありがとうございました。皆様方の多くの支えや温かいお心づくし、何も伝えなくても、何も語らなくても必ず感じ取ってくれている。そう信じられる子どもたちとの出会いであり別れとなりました。福井へ来て、今回はどんなものを持ち帰ってくれるのか、楽しみでもあり不安でもあります。この期間中、初日からこのバスが出発するのを見送るまで、ずっと一緒にいてくれた春江町の子どもジャングルの男の子 2 人がいます。南相馬の子ども達と夏に引き続きスキーも寝食も共にしました。バスを見送り自宅への帰りの道中、あつという間に深い眠りに就いていました。彼らにも、そしてこの事業に関わる全ての方々にとっても、きっと何かを与えてくれる、何かを運んでくれている。そう思われます。何より、私達スタッフがそう感じています。感謝です。

あわただしく出発し、子ども達に何も言葉をかけられませんでした。今回もまた、大きなものを与えてくれたように思います。ありがとうございました。

<最後に>

初のスキーという事で、ケガ等も心配はしたのですが、期間中ケガもなく無事保護者の元へ全ての参加者を送り届ける事が出来ました。皆様のご支援、ご協力、誠にありがとうございました。参加者はもちろん、年末のお忙しい最中、私達を信頼して送り出して頂けた保護者の皆様、本当にありがとうございました。年間で最もお忙しい時期に受け入れを快くご承諾頂いた北陸電力株式会社リフレ勝山様、スキージャム東急リゾート様、今回も沢山の後方支援を頂いた県民生協ふくい様、募金等の形で携わって頂いた多くの皆様、誠にありがとうございました。スキー指導スタッフとしてお力を貸していただいた皆様、そして子どもジャングルの子ども達と保護者の皆様、多くの皆様のおかげを持ちまして無事にこの事業を行うことが出来ました。ありがとうございました。

今回は夏にも福井へ来た子ども達ばかりです。南相馬の保護者の方々からは「全額実費でも福井へ、荒巻さんの元へ行かせてやりたい」とのお声を頂いていました。実際に一部を実費にて参加者にご負担を頂いております。そうした保護者の皆様のお心遣いや思いにこころ動かされています。

連続して福井へと招き、保護者との関係、子どもとの関係、子ども同士の関係が深まってきました。彼等、彼女等に特別な事が私達に出来るわけではございません。しかし、2回続けた中で、保護者、子ども双方に様々な思いや、それぞれの葛藤を抱えている事も少し

づつ感じられるようになってきました。特に子ども達はまだまだ、多くのものを心の奥に抱え込んでいるようです。関係性が深まるにつれ、そうしたものが少しずつ私達も感じられるような気になっています。実は、こうした支援を継続する事により、もしかしたら私達では抱えきれない葛藤を彼等、彼女等が表出してくるのではないか、そんな怖さも感じています。同時に、継続して支援を行っていく意味はここにあるのかなあ、できることなら彼等、彼女等の行く末を最後まで見守ってあげる事は叶わないのかなあ、そんな思いがあります。そんなふう感じた7日間でした。

継続して支援をしていく難しさは十分に承知しているつもりです。それでもまだ続けて行きたいと思わされる7日間でした。今後とも皆様のご理解とご協力、よろしく願い致します。

今回は誠にありがとうございました。